

2022年6月13日

各位

会社名 株式会社カイオム・バイオサイエンス  
代表者名 代表取締役社長 小林 茂  
(コード：4583 東証グロース)  
問合せ先 取締役 経営企画室長 美女平 在彦  
(TEL. 03-6383-3746)

**がん治療用抗体 CBA-1205 の第 I 相試験後半パートにおける  
試験実施施設の拡大と第一例目の被験者への投与開始のお知らせ**

この度、当社が開発中のがん治療用抗体 CBA-1205 の第 I 相試験後半パートにおいて、新たな試験実施施設との契約が完了、また第一例目の被験者への投与が開始されましたので、お知らせいたします。

CBA-1205 の第 I 相試験前半パートでは本抗体の高い安全性と忍容性が確認されましたが、本試験では前半パートでの最大量を参考に肝細胞がん患者さんの臨床試験における最適な投与量の確認と初期の薬効シグナルを評価し探索的な有効性を調べることを目的としております。

本試験ではプロトコルに適した患者さんの登録を進めるため、前半パートに続き、国立研究開発法人国立がん研究センター中央病院および東病院の 2 施設での試験実施に加え、地方独立行政法人神奈川県立病院機構神奈川県立がんセンターおよび新潟大学医歯学総合病院において臨床試験を進めてまいります。

当社では本抗体の初期の薬効シグナルの確認が早期導出の鍵となると考えており、今後の進捗につきましては適宜ご報告いたします。

本件による 2022 年 12 月期の通期業績への影響はありません。

以上

<CBA-1205 について>

CBA-1205 は、肝臓がんを中心とする固形がんの細胞表面に発現している抗原（標的分子）「DLK-1 (Delta like 1 homolog)」に選択的に結合する遺伝子組換えヒト IgG1 型モノクローナル抗体です。糖鎖改変技術によって抗体依存性細胞傷害活性（ADCC 活性）を増強させた抗体で、DLK-1 を発現するがん細胞を移植したマウスに対して強力な抗腫瘍活性を示します。DLK-1 は、幹細胞や前駆細胞といった未熟な細胞の増殖、分化を制御する分子であり、肝臓がんなどに対して新しい治療の標的になる可能性がある分子です。現在、DLK-1 を標的とする治療薬および臨床開発に進んでいる治療薬候補もないため、今回の第 I 相試験は、DLK-1 を標的として世界で初めて実施する治験となります。第 I 相試験前半パートにおいて、本抗体は安全性、忍容性が高いことが確認されております。